

内水面スーモアップ

<第1回 当センター展示室>

千葉県内水面水産研究センター

〒285-0866 佐倉市臼井台 1390

TEL 043-461-2288 FAX 043-460-1340

E-mail naisuiken@mz.pref.chiba.jp



講義室で説明する担当者(村田)



熱心に聞く生徒たち

●来場者は年々増加

今日も展示室では、総合学習で訪れた地元の中学生が、センター自慢の魚たちに興味を示し、スケッチしたり、漁具の使い方の説明を熱心に聞いています。現在の「展示室」は旧内水面漁業研修所だった施設内の実験室、それも一部の水槽展示コーナーとしてスタートし、今年で12年目を迎えました。

特に宣伝等はしておりませんが、口コミによる来場者が多く、大人から子供まで年間800人以上が見学に訪れています。最近ではホームページを開設した影響からか、見学者も増えています。



●入り口ではアユたちがお出迎え!

研修施設玄関前では、「展示室」と書かれた粗末な手作りプレートに落胆(?)しつつ展示室に入ると、意表をつかれるように正面には大きな円形水槽(500ℓ)が左右に鎮座し、中で泳ぐアユ達(季節により魚種は変わります)に出迎えられると意外な驚き生まれるのではないのでしょうか。

室内の広さは約80㎡(27坪)あり、中央付近に2列になった水槽群が並び、壁際周囲のすべてに水槽、漁具が展示されています。左右の展示物を見学しながら、室内を一巡できるような工夫を凝らしています。



魚の動きに一喜一憂

一般に親しまれているコイ、フナ、ドジョウは元より、見かけることの少なくなったタナゴやホトケドジョウ、ウナギ、ナマズ、ウグイといった養殖魚、沼での漁業の重要種であるモツゴやテナガエビなど、メインとなる水槽展示では県内に生息している淡水魚を中心に約50種を見ることができます。

現在ではオオクチバス、ブルーギルといった外来種の移入によりメダカ、タナゴ類などが減少していると言われていますが、移入種のみならず在来環境が大きく変化し、魚に限らず昆虫、植物などあらゆる生き物が環境の変化に影響を受けています。これらの魚たちが生息している環境を「ちょっぴり」考えてみるのも一興ではないでしょうか

また、団体見学者には別室にてビデオ上映を行い、センターの仕事、千葉県の内水面漁業、養殖の状況についてご理解頂いたうえで、展示室を見学してもらっています。



●その答えは展示室にあり

それでは最後に素朴な質問をみなさんにしたいと思います。魚の年齢はウロコや耳石(じせき)で判定できます。では、「魚の尾は体のどこからでしょうか?」



タウナギ(夜行性です)

もし、お解りにならないようでしたらその答えは当センター内展示室にあります。

秋も深まり清々しい時期を迎えています。印旛沼周辺の散策などにお越しの節は、ぜひ当センターへのご来場をお待ちしております。